

上映運動の輪広がる

「水俣」の国際会議でも映写記録映画

ボストンで、十六日からスウェーデン・エーテボリで行なわれる海洋汚染問題会議で映画「水俣」のダイジェスト版を上映して報告するという。

【大阪】自主製作の記録映画「水俣」患者さんとその世界」が反響を呼んでいる。三月、東京でスタートした上映運動は、公書を告発する市民や教育、宗教関係者などの手で日本列島に広がった。これまでに北海道から奄美大島まで十三万人以上の観客を動員。ダイジェスト版「が近々米国とスウェーデンで開かれる国際会議でも上映される。

月にかけて、大阪、熊本、札幌、長野、広島などこれまでに全国九カ所に上映委が組織され、各地の公民館を借りたり、学校や労組を回って上映を続けている。

観客にアンケート用紙を手渡している。これまでに三百通を越える用紙が同事務局に返送されている。「いまさらながらチツソ資本の人間無様、ものすごい怒りと敬うしさを感しました」一兵庫・加古川市の高校生（一〇）。「人間の尊厳はどこに、と悔し涙が流れました。私自身の眠っていたものを告発され、戦いに加わることを決意させてくれました」一大阪・東淀川区の幼稚園保健士。

映画は東京・西新橋の東プロダクション（高木隆太郎代表）製作。フリーの映画作家、土本典昭監督が昨年六月から十一月まで熊本・水俣などで現地ロケした。カメラは胎児性水俣病患者者ととらえ、患者らの「恨念」がこもった不知火海で、生きるため魚を捕ける受難の漁民の姿を粘り強く追う。

なかでも京都の「映画「水俣」を見る会」の活動がユニーク。見る会は個人参加。学生や〇〇、若い教師、僧職などに混じって、京都市内の映画館主、三大寺一館さん（〇〇）も会員。早朝に映画館を高校の団体鑑賞などに提供している。府、市教育委員会の推薦もあり、秋までには市内の全公立高校が鑑賞する予定。京都市北区の府立洛北高校（大八木正治校長）夜間部のように映画を見たのがきっかけで、生徒が要求し、五月末、九州修学旅行のコースに水俣を入れ、現地で患者家族と話し合いをした学校も出てきた。

反響も大きい。大阪・北区の近畿上映事務局では、上映のたびに

映画の上映は有志による上映委員会方式。東京を皮切りに四十七

助手が七日出発、十日から米国・

京水俣粉を告発する会」の中心メンバーでもある宇井純東大工学部

こうして盛り上がりの中で「東京水俣粉を告発する会」の中心メンバーでもある宇井純東大工学部助手が七日出発、十日から米国・